

from M

第9号

岸和田市郷土文化室(自然資料館・郷土資料館)

平成14年6月

2002年4月より、郷土史資料室ときしわだ自然資料館が統合され、郷土文化室となりました。今後ともよろしくおねがいします。

ツバメのまち岸和田

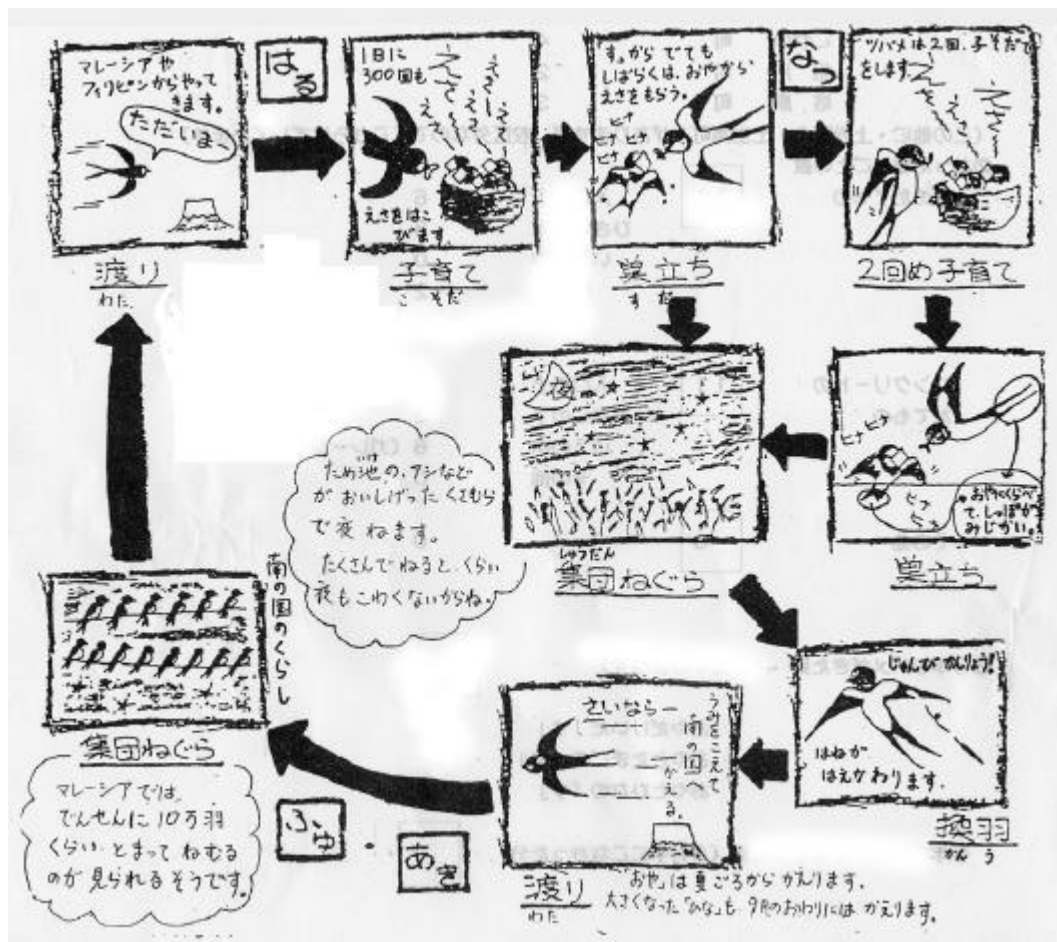
春から夏にかけて、人にもっとも身近な鳥が日本列島にやってきます。その名はツバメ。岸和田には3月初旬から5月の間に三々五々、台湾やフィリピン方面から渡ってきます。その後つがいを形成し(どちらかが死ぬまで同じ相手を選ぶようです)通常2回の子育てを行います。そして、朝夕肌寒くなる9月下旬ごろになると、群れをつくって南へ帰っていきます。

ツバメの巣はご存じのとおり、建造物の軒先など人目につきやすい場所にあるので、子育てのようすが丸見えです。多くの生物にとって危険きわまりない動物であるヒトの近くで、外敵から襲われやすい繁殖時期を過ごすツバメは鳥、いや生物のなかでも特殊です。1年中、ヒトの近くにいるスズメさえも、繁殖は屋根瓦のすきまなど人目につかない場所で行うのに、ツバメはヒトが強い生き物であることを逆手にとって接近し、ヘビやカラスなどの天敵から身を守ります。しかし、これはヒトが長年にわたり、鳥のなかでも特にツバメを大切にしてきた結果でもあります。「ツバメが巣をつくる家は栄える」とか、「ツバメが低く飛んだら雨」「雁が帰っちゃツバメが来たる」などのことわざや言い伝えの多さからも、人とツバメがともに歩んだ歴史の長さが感じられます。

岸和田は今のところ極端に都市化した地域がないので、ツバメの巣のない校区はありません。児童の通学路を歩くと、1つ2つはすぐ見つかります。身近にいる野生生物で成長の過程が見やすく巣の場所がわかりやすいツバメは、総合学習に適した指標生物(環境をはかるものさしとなる生物)といえます。

指標生物になる理由はほかにもあります。ツバメは子育てする場所に、巣をつくる場所である建物、エサとなる昆虫が多いため池や森、巣材にする土が得られる田畑が近くにバランスよくある環境を好みます。このような環境は、ヒトが住みやすい場所とも一致します。このことから、ツバメの子育てが普通に見られるということが、ヒトが健康的に生活できる場所の証となります。こういった指標生物を、同じ視点から広い地域で観察し調べてまとめると、現在自分がいる場所がすみやすいかどうかを知る手がかりになります。

ツバメを調べる場合の視点としては、巣の場所や数、子育てをしているつがいの数や子育て期間の長さ、巣立った子ツバメの数、巣の形などが考えられます。これらのなかから



1つか2つを選び、自然環境の異なる他の校区と同時期に調査をして分布や生育速度を比較すると、その地域の環境が今どういう状況なのかが、わかりやすくなるでしょう。

遠くの「美しい」「有名」な自然を題材にして環境学習をするのもよいことですが、まずは身近でありふれた校区内の環境を調べ、そこから地球環境を考えるのが、地域に根ざして継続できる、すばらしい学習ではないでしょうか。

興味のある方は、詳しい調査方法や調査用紙見本があるので、自然資料館「風間」までご連絡ください。

風間美穂 郷土文化室（きしわだ自然資料館）

不思議な考古学（考古学をきちんと理解してもらうために）

岸和田市には埋蔵文化財の担当職員は5名います。仕事は主に開発に伴い破壊される遺跡の発掘調査を行い、詳細な記録を取り、研究を行い、貴重な文化財を後世に伝えることを目的としています。こういった考古学の専門職員は、大変少数で全国の自治体におよそ6,500人程度しかいません。だからほとんど人に知られていないマイナーな職種なんです。そのためか考古学を取り巻く環境は不思議な偏見に満ちています。その一例を皆さんがよく知っているメディアからご紹介しましょう。

最近知られつつあるのが、「となりのトトロ」のお父さんです。あのクサカベさんは大

学で考古学教室に行っています。また、家でなにか難しい顔をして書き物をしています。いわゆる考古学者ですね。これは比較的きちんと考古学者のスタイルを描いているもので、私個人は評価しています。また、あの作品は民俗学的な視点でも秀逸で、非常によく研究されて作られているものです。でもあれ以外の映画、テレビ番組はひどいものです。本当に考古学って変な方向に理解されています。

よく言われるのが映画の「インディージョーンズ」にある「考古学者」のスタイルです。考古学が好きだと言う人に聞いてみると「わたし、インディージョーンズを見て考古学にあこがれたんです・・・」って話をよく聞きます。でもあれって考古学者のする行為じゃないんですよ。宝のありかを探しだし、最後はその宝をひっつかんで脱兎のごとく崩れゆく神殿から脱出する・・・はっきり言ってあれは盗賊もしくは盗掘者であって学者ではないですね。本来の考古学とは、発見された遺物（宝物を含む）に対して、きちんとした記録を取り、それらがそこで発見されるに至るまでの人の動き、思想を復元し、解明する学問です。すごい宝物を見つけたからと言ってむやみにつかんで動かしてはいけません。

次にひどいのがテレビの「徳川埋蔵金大発掘」。巨大なパワーショベルでむやみやたらと掘り返しているもんだから、記録もなにもあったもんじゃありません。番組名に発掘と付けているから、知らない人はあれも考古学だと思いかねません。考古学は宝探しじゃありません。たとえ小判が何万両出てきても、その埋められた地下構造や背景が分からなければ学問的価値は低い物なんです。

あとはテレビの「アン・リーバボー」などで時折見かける、呪い・祟り系ですね。あれもひどい。地下に埋もれている古墳（番組では塚）が祟るなら、私たちはそれをたくさん発掘している訳ですから、今すぐ死んでなきゃならないですよ。でもピンピンしています。逆に言えば、死者は不遇な自分の存在を知ってもらいたくて化けて出るんですから「埋まって分からなくなってしまうという古墳を解明し、その存在を証明してあげること」これはどんな偉いお坊さんにも真似できない、最高の供養だと私は考えています。だから考古学者や発掘調査技師は呪われません。さらによく言われる「ツタンカーメン王の呪い」も同様です。あれはある新聞社1社がスクープを独占したのをやっかんで、他の新聞社が面白おかしく書き立てたのが発端です。呪い？そんな訳ないじゃないですか。それが本当だとしたら世の考古学者はほとんど短命で、なり手がなくなってしまう。

こんなわけで考古学についての番組を挙げ出すとキリがないくらい無茶なものが出てきます。やや面白おかしく書きましたが、これが現実です。これらのおかげで考古学って不思議な学問で、変人のすることだという悲しい？社会認識を生み出しているのです。これ、考えすぎかもしれませんが、将来、これを読んでいる先生方の受け持つ子供たちが、「考古学」を志した時（非常に少数だと思いますが）、変な認識を持って大学に行かないよう、よろしく願いますね・・・。

山岡邦章 郷土文化室

○ ● INFORMATION ● ○

■ きしわだ自然資料館の イベント情報

● 海の日特別ハイビジョンシアター

日時：7月20日（土）午前11時・午後2時・
午後4時の3回上映
場所：きしわだ自然資料館1階ホール

● 自由研究大相談会・はじまりの部

日時：7月21日（日）午後1時30分
～午後4時30分（受付は午後4時まで）
相談は先着順に受け付けます。
場所：自然資料館1階ホール
費用：無料（2・3階への入館は有料）

相談にのれる分野：植物・昆虫・地学・その他動物・環境調査

化学・物理分野のご相談にはのれませんので、あらかじめご了承ください。

自由研究大相談会は、他にも夏休み中に2度開催されます。

中期：8月9日（日）山直市民センター2階講堂

後期：8月25日（日）自然資料館1階ホール

くわしくは、広報きしわだやホームページなどをご覧ください。

●河原の石さがし・標本づくり観察会

河原の石の標本づくりを勉強しませんか。身近な河原を観察して、どんな種類の岩石があるか、探してみましょう。

日時：2002年8月4日 10：00～15：30

（雨天中止）

定員：40名（小学生以下は保護者同伴で）

申込：往復はがきまたはEmailで、7月25日（必着）〒596-0072 岸和田市堺町6-5「河原の石」係 mail：sizen@city.kishiwada.osaka.jp

■「きしわだ自然資料館・郷土資料館学習券」ぜひお使い下さい

「きしわだ自然資料館・郷土資料館学習券」は、児童および生徒のみなさんに配っていただけましたか？この券を自然資料館・郷土資料館へ持参すると、市内の小中学生は1回づつ、無料で入館できます。夏休みの自由研究や調べ学習などに、ぜひご利用下さい。

使用期限は2003年3月30日（日）です。

■きしわだ自然友の会について

平成14年6月より「きしわだ自然友の会」が発足しました。この会は、きしわだ自然資料館とともに協力し、活動していく団体です。自然のことをもっと学びたい、自然に興味のある人たちと関わりたい、そんなあなたの入会をお待ちしております。

▼入会金：無料

▼年会費：

個人会員2,000円（中学生以上）／家族会員3,000円／特別会員10,000円

▼会員特典：

- 1：友の会主催の行事に参加できます。
- 2：友の会誌「メランジェ」が送付されます（購読料は会費に含まれます）。
- 3：自然資料館の入館料やミュージアムショップの商品が割引になります。

▼お申し込み方法

自然資料館開館時に、随時受付中。FAXなどでの申し込みについても可能です。ご質問・お問い合わせは、きしわだ自然資料館（TEL：0724-23-8100）までおねがいします。

■郷土資料館のイベント情報

●企画展「市民から寄せられた文化財」

2002年5月30日（木）～9月29日（日）

市民の皆様から寄贈された書画や民具など約40点を展示します。今回は特に児童・生徒向けの資料解説（概ね小学校高学年以上）も備えてみました。先生方のご意見・ご感想などお寄せください。

お問い合わせ：TEL：0724-31-3251

（郷土資料館）

お願い [fromM] は、学校教職員に1部ずつお配りください。担当の方はお忙しいところ申し訳ございませんが、よろしくお願い申し上げます。

【from M】では、みなさまのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしております。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、投稿文の方も受け付けております。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、下記のところまでお送りください。電子メールでも受け付けております。なお【from M】はホームページ上でもご覧になることができます。ぜひご利用ください。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町6-5

きしわだ自然資料館

TEL (0724)23-8100 FAX (0724)23-8101

Email:sizen@city.kishiwada.osaka.jp

自然資料館ホームページURL:

<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/sosiki/k-nature/>

Yahoo Japanの検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、簡単です）